

### 平成24年度 調査船調査計画書

1 船 名 俊 鷹 丸 ( 国 際 水 産 資 源 研 究 所 )  
 2 総トン数・馬力数 887 トン 4,000 馬力  
 3 調 査 名 南西諸島周辺における太平洋クロマグロ稚魚調査

4 調 査 期 間 平成 24 年 5 月 22 日 ~ 平成 24 年 6 月 29 日 (39日間) (航海数:1航海)

5 担当研究所等 国際水産資源研究所  
 責任担当者 : 阿部 寧  
 電 話 : 054-336-6033

6 乗船調査員等

氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 : 土井 航	国際水産資源研究所	5月22日 ~ 6月29日
研究所等職員 : 未定(1名)	中央水産研究所	5月22日 ~ 6月29日
契約職員 : 未定(4名)	国際水産資源研究所	5月22日 ~ 6月29日

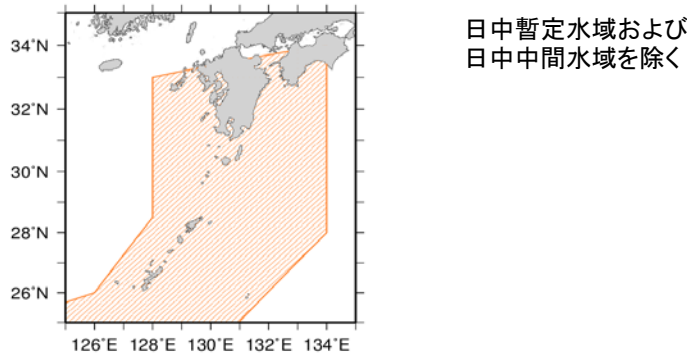
7 調 査 目 的 クロマグロの産卵場である南西諸島周辺と当歳魚の漁場である九州・四国沿岸にかけての海域において、クロマグロ稚魚の分布・成長・摂餌などの生物学的知見および水温・塩分・潮流などの海洋学的知見を収集し、本種のふ化から加入までの過程を明らかにする。

8 調 査 項 目

- ① 海洋観測 : CTD観測(約110点)、ADCP観測
- ② 基礎生産量調査 : クロロフィル測定(約110点)
- ⑤ 漁獲調査 : 表中層トロール(約110点)
- ⑨ その他調査 : 一般気象・海象観測

9 調 査 海 域 沖縄本島から九州西岸・土佐湾にかけての黒潮流域およびその周辺

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
5月22日	清水港出港		3			
5月25日	調査開始			15	1	
6月9日	那覇港入港	2				
6月11日	那覇港出港			16		
6月28日	調査終了		2			
6月29日	博多港入港					
	合計	2	5	31	1	

12 消費燃油予定量 油種: **重油** 軽油 消費量 221 KL

( 様 式 2 )

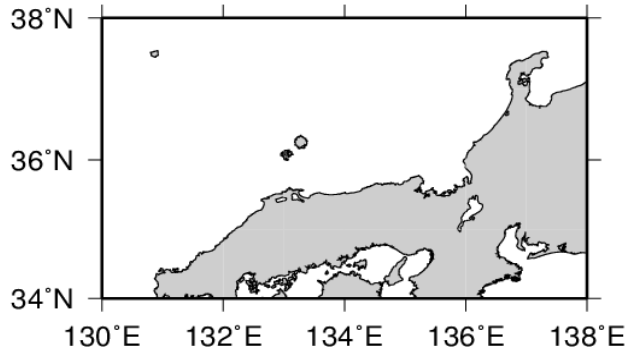
### 平成24年度 調査船調査計画書

- 1 船 名 俊 鷹 丸 ( 国 際 水 産 資 源 研 究 所 )
- 2 総トン数・馬力数 887 トン 4,000 馬力
- 3 調 査 名 日本海における太平洋クロマグロ仔魚調査
- 4 調 査 期 間 平成 24 年 7 月 2 日 ~ 平成 24 年 7 月 19 日 (18日間) (航海数:1航海)
- 5 担当研究所等 国際水産資源研究所  
責任担当者 : 阿部 寧  
電 話 : 054-336-6033
- 6 乗船調査員等
 

	氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 :	土井 航	国際水産資源研究所	7月2日 ~ 7月19日
研究所等職員 :	未定(1名)	中央水産研究所	7月2日 ~ 7月19日
契約職員 :	未定(2名)	国際水産資源研究所	7月2日 ~ 7月19日
- 7 調 査 目 的 日本海のクロマグロ産卵場周辺で本種の卵仔魚の採集調査と海洋観測を行い、産卵場の海洋環境特性を把握するとともに、卵仔魚の初期生残や分布・移送過程に関する知見を得る。
- 8 調 査 項 目
  - ① 海 洋 観 測 : CTD観測(約30点)、ADCP観測
  - ② 基礎生産量調査 : 栄養塩・クロロフィル測定(約50点)
  - ③ プランクトン調査 : 2mリングネット(約100点)、LNPネット(目合NXX13)(約50点)
  - ⑨ その他調査 : 一般気象・海象観測

9 調 査 海 域 能登半島から山口県沖にかけての日本海中西部海域

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
7月2日	博多港出港		1			
7月3日	調査開始			14		
7月17日	調査終了		3			
7月19日	清水港入港					
	合計		4	14		

12 消費燃油予定量 油種: **重油** 軽油 消費量 114 KL

( 様 式 2 )

### 平成24年度 調査船調査計画書

1 船 名 俊鷹丸 (国際水産資源研究所)

2 総トン数・馬力数 887トン、4000馬力

3 調 査 名 鯨類目視環境調査

4 調 査 期 間 平成 24 年 7 月 25 日 ～ 平成 24 年 8 月 21 日 (28日間) (航海数:1航海)

5 担当研究所等 国際水産資源研究所 外洋資源部 鯨類資源グループ  
 責任担当者 : 吉田 英司  
 電 話 : 045-788-7510

6 乗船調査員等

	氏 名	所 属	期 間
研究所等職員	未定	国際水産資源研究所	7月25日 ～ 8月21日
研究所等職員	未定	水産工学研究所	7月25日 ～ 8月21日
目視専門観察員	未定3名	水研センター契約職員	7月25日 ～ 8月21日
契約職員	未定2名	水研センター契約職員	7月25日 ～ 8月21日

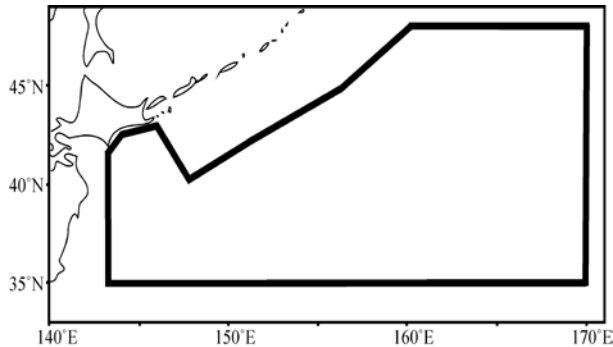
7 調 査 目 的 広域分布する鯨類の資源量を推定する為には、適切な海域を選定して目視調査を行なう必要がある。そこで本調査では目視調査が重点的に行われている夏期において、イワシクジラを中心とする鯨類の分布と環境情報を同時かつ定量的に収集し、各鯨種の分布特性を詳細に把握することにより、各鯨種の資源調査法を改善することを試みる。本航海は定量的な鯨類目視、環境調査を一隻のセンター船で行なう初の試みであり、センター船の高度かつ有効な利用を目指す観点から、今後の目視調査でこの調査法を取り入れる可能性についても、現場で調査状況を勘案しつつ検討する。

8 調 査 項 目

- ① 海 洋 観 測 : CTD採水(約50地点)、蛍光光度、水中照度観測(それぞれ約30地点)、ADCP
- ③ プラクトン調査 : ノルバックネット採集(約50地点)、VMPS、MOCNESS、MOHT採集(それぞれ約10地点)
- ⑤ 漁 獲 調 査 : 表中層トロール採集(約30地点)
- ⑥ 魚 探 調 査 : 3周波計量魚探機(J-QUESTの使用も検討)
- ⑦ 目 視 調 査 : トップバレルからの鯨類分布調査

9 調 査 海 域 北西太平洋外洋域(東経143-170度、北緯35-48度の範囲 [除:ロシア200海里EEZ])

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
7月25日	清水港出港		3			
7月28日	沖合調査域着、調査開始			20		
8月16日	沖合域での調査終了		2			
8月19日	魚探較正実施			1		較正場所は房総沿岸を予定
8月19日	魚探較正終了		2			
8月21日	清水港入港					
	合計	0	7	21	0	

12 消費燃油予定量 油種: 重油 軽油 消費量 140 KL

### 平成24年度 調査船調査計画書

1 船 名 俊 鷹 丸 ( 国 際 水 産 資 源 研 究 所 )  
 2 総トン数・馬力数 887トン 4,000馬力  
 3 調 査 名 北西太平洋における混獲生物調査

4 調 査 期 間 平成 24 年 9 月 12 日 ~ 平成 24 年 10 月 11 日 (30日間) (航海数:1航海)

5 担当研究所等 国際水産資源研究所 かつお・まぐろ資源部 混獲生物グループ  
 責任担当者 : 南 浩史  
 電 話 : 054-336-6047

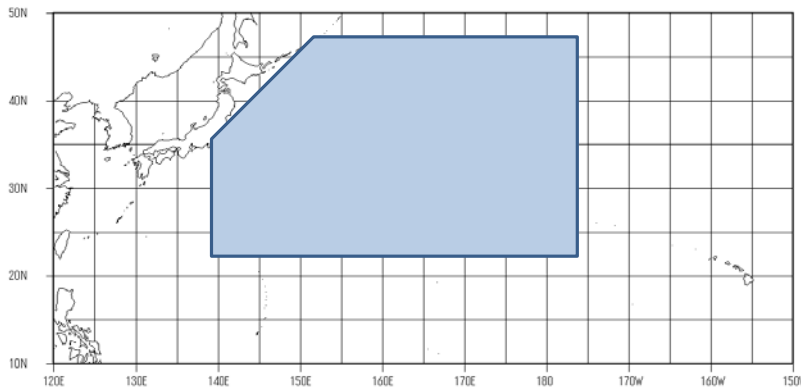
6 乗船調査員等	氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 :	南 浩史	国際水産資源研究所	9月12日 ~ 10月11日
契約職員 :	未定	国際水産資源研究所	9月12日 ~ 10月11日
契約職員 :	未定		9月12日 ~ 10月11日
:	未定		9月12日 ~ 10月11日
:	未定		9月12日 ~ 10月11日

7 調 査 目 的 近年、海鳥に関しては北太平洋と南大洋では、漁船に集まる海鳥の種や個体数、操業形態や漁船規模などの要因により混獲の発生メカニズムが異なることが指摘されており、それぞれの水域に最適な混獲回避措置を導入するためには、海鳥の分布特性や混獲発生メカニズムを明らかにする必要があります。本調査はこのような背景をうけて、表層トロール、延縄、海鳥食性解析・衛星追跡、海洋観測調査を通じて、海鳥類の餌生物や生態系における位置、海洋環境との関係を明らかにすることで、彼らの分布特性や混獲発生メカニズムの把握を試みる。

- 8 調 査 項 目
- ①海洋観測 : CTD、XBT、XCTD、栄養塩、ADCP、採水、測深による海洋調査
  - ③プランクトン調査 : 中層トロール、ボンゴネットによる餌生物調査
  - ⑤漁獲調査 : はえ縄、中層トロールによる漁獲調査
  - ⑦目視調査 : 鳥群れ、漂流物等の目視

9 調 査 海 域 北西太平洋

10 調 査 海 域 図



11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
9月12日	清水港出港		13	16	1	
10月11日	清水港入港					
	合計		13	16	1	

12 消費燃油予定量 油種: 重油 軽油 消費量 235 KL

( 様 式 2 )

平成24年度 調査船調査計画書

- 1 船 名 俊 鷹 丸 ( 国 際 水 産 資 源 研 究 所 )
- 2 総トン数・馬力数 887トン 4,000馬力
- 3 調 査 名 北西太平洋亜熱帯域はえ縄漁場環境調査
- 4 調 査 期 間 平成24年10月17日 ~ 平成24年11月16日 (31日間) (航海数:1航海)
- 5 担当研究所等 国際水産資源研究所 かつお・まぐろ資源部 まぐろ漁業資源グループ  
責任担当者 : 余川 浩太郎  
電 話 : 054-336-6044

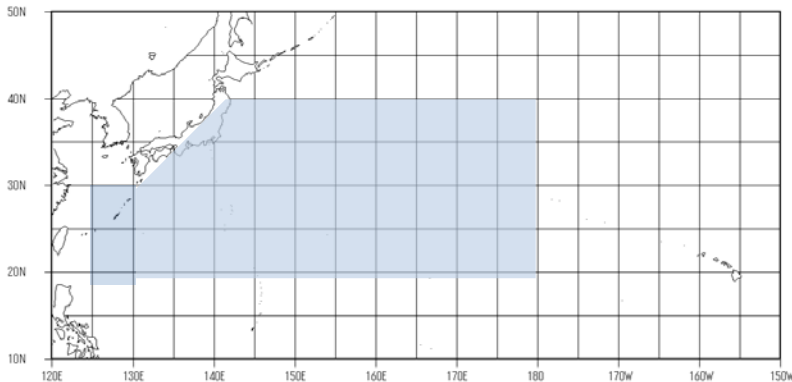
6 乗船調査員等	氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 :	未定	国際水産資源研究所	10月17日 ~ 11月16日
研究所等職員 :	未定	国際水産資源研究所	10月17日 ~ 11月16日
研究所等職員 :	未定	国際水産資源研究所	10月17日 ~ 11月16日
契 約 職 員 :	未定	国際水産資源研究所	10月17日 ~ 11月16日
契 約 職 員 :	未定	国際水産資源研究所	10月17日 ~ 11月16日
契 約 職 員 :	未定	国際水産資源研究所	10月17日 ~ 11月16日
契 約 職 員 :	未定	国際水産資源研究所	10月17日 ~ 11月16日
契 約 職 員 :	未定	国際水産資源研究所	10月17日 ~ 11月16日

7 調 査 目 的 カジキ・サメサブユニットでは、北太平洋のカジキ・サメ類のCPUE解析に海洋データを取り込む手法を検討する為、これまで黒潮続流域周辺ではえ縄漁場の漁場環境調査を行ってきた、ヨシキリザメの漁獲には表層混合層塩分濃度が強く影響している事等を明らかにしてきた。今後は対象魚種を暖水系のカジキ・サメ類に変更して同様の調査を行っていく。

- 8 調 査 項 目
- ①海洋観測 : CTD、XBT、XCTD、栄養塩、ADCP、採水、測深、による海洋調査
  - ③プランクトン調査 : 中層トロールによる餌生物調査
  - ⑤漁獲調査 : はえ縄、中層トロールによる漁獲調査、小型水深水温計によるはえ縄漁獲物漁獲水深調査
  - ⑦目視調査 : 鳥群れ、漂流物等の目視

9 調 査 海 域 北西太平洋亜熱帯・熱帯域(外国の200海里内は含まない)

# 調 査 海 域 図



# 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
10月17日	清水港出港		12	19		
11月16日	清水港入港					
	合計	0	12	19	0	

# 消費燃油予定量 油種: 重油 軽油 消費量 240 KL

( 様 式 2 )

### 平成24年度 調査船調査計画書

1 船 名 俊鷹丸 ( 国 際 水 産 資 源 研 究 所 )

2 総トン数・馬力数 887トン 4000馬力

3 調 査 名 熱帯性まぐろ類の産卵場環境調査

4 調 査 期 間 平成24年11月28日～平成24年12月25日 (28日間) (航海数:1航海)

5 担当研究所等 国際水産資源研究所 かつお・まぐろ資源部 まぐろ漁業資源グループ  
 責任担当者 : 佐藤圭介  
 電 話 : 054-336-6044

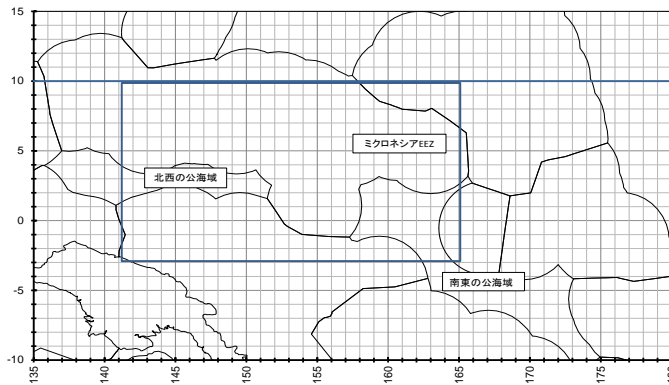
6 乗船調査員等	氏 名	所 属	期 間
研究所等職員 :	佐藤圭介	まぐろ漁業資源グループ	11月28日～12月25日
研究所等職員 :	未定	まぐろ漁業資源グループ	11月28日～12月25日
そ の 他 :	未定		11月28日～12月25日
そ の 他 :	未定		11月28日～12月25日

7 調 査 目 的 主要な産卵域である太平洋熱帯域において、熱帯性まぐろ類およびカツオの産卵状況を明らかにするため、稚仔を中層トロール等によりネット採集するとともに海洋環境を調査する。

- 8 調 査 項 目
- ① 海 洋 観 測 : CTD, ADCP
  - ③ フラウンクトン調査 : 2mリングネット
  - ⑤ 漁 獲 調 査 : 曳網調査、トロール調査
  - ⑨ そ の 他 調 査 : 漂流ブイ投入

9 調 査 海 域 北緯10度から南緯3度。東経140-165度(公海域。ミクロネシアEEZ海域)

10 調 査 海 域 図



左図中の矩形

11 運 航 予 定 表

月日	項目	運航状況				備考
		停泊	航海	調査	予備	
11月28日	清水					
12月25日	清水		14	14		
	合計	0	14	14	0	

12 消費燃油予定量 油種: **重油** 軽油 消費量 168 KL